

## 大阪を中心とする

# 婦人体操グループの活動実態調査

帝塚山学院短期大学	松本 迪子
(共同研究者) 同	波多野 久美子
リズム体操研究会	谷 玲子
同	河野 三千代
同	池田 昭子

### 調査研究の目的

大阪およびその周辺に婦人たちが体操している集りがどれほどあるだろうか。そのすべてを探し出すことは困難としても、どれだけの数を把握出来るだろうか。

把握出来たグループからの調査結果をもとに活動の実態を知る手がかりを得たい、というのが今回の調査の目的である。

クラブの登録が積極的におこなわれていない我国にあって（例外市町村を除く）、この種の活動クラブ又はクラブ以前の活動形態のものについてその存在をつかむ確たる手懸りはない。しかし、地域住民の多様なニーズに答えて行くという立場から、現在それらのニーズをそれぞれの角度からうけとめ、活動しているクラブの存在と活動状況を知ることは意義あることと考える。残念ながら手段と費用と日数の面に限りがあり、今回は予備調査の域を出なかった。

### 調査方法

今回は、「婦人体操グループ」を婦人の「体操

している仲間又は集り」と考えることとし、学校及び職域におけるクラブ、サークル等は除いた。

#### ① 対象グループの把握

次の角度からグループの聴きだしを試みた。

1. 市町村担当窓口からの情報(電話による)。
2. 区役所窓口に置かれた区民サービス用公報、パンフレットによる情報。
3. マスコミによる情報。
4. 専門家・知人・友人からの情報。
5. 体操グループ組織F G Aを通じての情報。
6. 大阪府下各教育委員会に質問回答を依頼しての情報。

大阪府下30市12町1村のうち、34（市町村）に電話での問い合わせをおこない、24（市町村）から31グループの紹介を得た。他の箇所では、その様な集りはない、情報もない（8）、隣の市にはあるはずだ（1）、あると思うが詳しくはわからない（1）の回答を得た。

府下教育委員会にあてた質問回答からは、54グループの活動存在をリストアップ出来た。グループのうちわけは、教育委員会主催になる教室のグループ（26）、公営体育館主催の教室グループ

(17), 自主活動グループ (10), その他 (1), である。

以上の方法により把握し得たのは 173 グループである。

② 実態調査

＜調査対象と方法＞

把握し得た 173 グループに対し、文面と電話により調査協力の依頼を行い、協力承諾のあったものを調査対象とし、二期にわけて下記①・②の調

査用紙を郵送した。

調査用紙 ①—グループを対象

②—グループ所属の個人を対象

＜回収状況＞

表 1 は、把握出来たグループ (把握数) から調査協力拒否グループ (拒否数) を除いた調査対象グループ (対象数) と調査紙回収数・回収率を示す。

表 1 地区別回収状況

	把握数	拒否数	対象数	回収数	回収率 (%)
大阪市内	25	2	23	12 【11】	52.2 【43.5】
大阪府下 周辺地域	115	10	105	51 【27】	48.6 【25.7】
計	173	14	159	81 【46】	50.9 【28.9】

注. 【 】は調査②

＜電話による追調査＞

不明な回答については、電話による追調査を実施。

＜調査期間 昭和55年2月～3月＞

当初予想されたことではあったが、この標本をもって全体を推測するにはむづかしく、ここでは結果のあるがままをとりあげ、調査①を中心に、

個人レベルの調査結果を補足して報告する。

結果と考察

＜活動型による分類＞

回収し得た調査 ① の回答 (81 グループ) を主催、運営、成立状況から表 2 の活動形態に分類し、考察をすすめた。

表 2 グループ類型

TN=81 (TN=93)

	活動型	N	内訳
I	自由活動型	53	複合 5 (N=60)
II	指導者主導型	12	
III	受動型 A (運営主体は教育委員会) (公営スポーツ施設)	8	複合 5 (N=13)
IV	受動型 B (運営主体は事業体) (私営スポーツ施設)	4	
V	その他	4	

Ⅲ・Ⅳは、いずれも主催者を異にするが、スポーツサークル・体操教室といった形で主催者によって企画運営され、参加者は所定の費用を納めて、プログラムサービスをうけるという受動型の点では同じと言える。

Ⅱも、指導者を主催者とすればこの範疇に入ると考えることも出来る。しかし、施設の保有という点では異なってくる。

「集り」を2つ以上もつ複合グループは、自由活動に5件、受動型Aに5件あり、それらを「集り」単位として集計すると93グループとなる。

＜グループ類型別の回収状況＞

回収が得られなかったグループについても電話質問によって活動型分類をおこない、グループ類型別に回収状況を見ると、類型Ⅱ・Ⅲ・Ⅳが劣っている（表3）。

表3 グループ類型別回収状況

	把握数	拒否数	対象数	回収数	回収率(%)
I	57	4	53	53 [517]	100
II	57	4	53	12 [ 67]	22.6
III	31	1	30	8 [123]	26.7
IV	22	4	18	4 [ 51]	22.2
V	6	1	5	4 [ 13]	80.0
計	173	14	159	81 [771]	50.9

注. 【 】調査⑧回収数

\*0.05>P \*\*0.01>P \*\*\*0.001>P

類型Ⅲの場合は、回答拒否の理由（電話）の主たるものは、  
 ・活動のプライバシーに触れる。  
 ・答えたくない、  
 ・公表されたくない、  
 ・既にグループが解散した、  
 ・調査時期が悪い、  
 といった理由によるものが多い。

＜グループ構成＞

グループの常時活動者数から集りの大きさを見ると（図1）、全体にグループは小さく、11～20人のわく内に66.7%が入る。

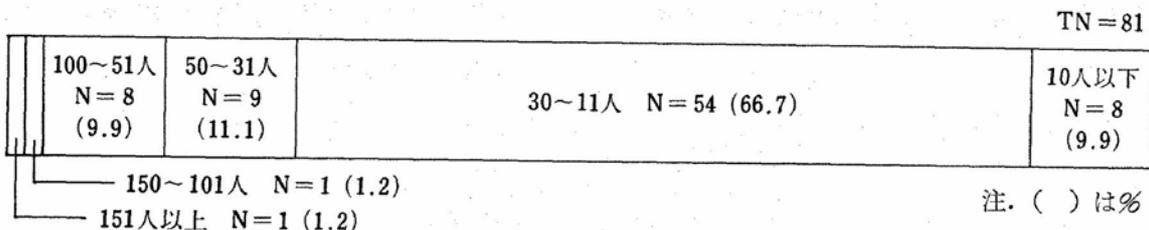


図1 常時活動人数

＜年齢構成＞

グループの平均年齢は30代後半に、最年少年齢は20代後半にまとまりを見せているが、最年長年齢は幅広く分布しており、一定の傾向は見られない（図2）。

＜成立状況＞

自主活動型グループについて、グループづくりのきっかけを見ると、主催事業など、行事との関連によるものが半数を占め、今回のデータでは、グループづくり施策が活着していると見られる（図3）。

＜結成時と存続年数＞

年 令	I	II	III	IV	V	計
21才以下	●●		●	●●		●●●
22 ~ 23	●●●	●	●			●●●
24 ~ 25	●●●●	●	●	●●		●●●●●
26 ~ 27	●●●●●	●●●	●			●●●●●●●
28 ~ 29	●●●●●	●●			●	●●●●●●
30 ~ 31	●●●● xx	●	●	xx		●●●● xx ●●●● xx
32 ~ 33	●●● ○ xx ●●● xx	●● x	●		●	●●●● ○ xxx ●●●● xx
34 ~ 35	● xxxxxx ● xxxxxx	● xx	xxxxx			●● xxxxxxxxxxxx ●● xxxxxxxxxxxx
36 ~ 37	● xxxxxx ● xxxxxx	xxx	xx		x	● xxxxxxxxxxxx ● xxxxxxxxxxxx
38 ~ 39	● xxxxxx ● xxxxxx	xxxx	x		xx	● xxxxxxxxxxxx ● xxxxxxxxxxxx
40 ~ 41	●● ○○ xxxxx ●● ○○ xxxxxx	○ x				●● ○○ xxxxx ●● ○○ xxxxxx
42 ~ 43	○○○○ xxx ○○○○ xx	xx				○○○○ xxxxx ○○○○ xxx
44 ~ 45	○○○ xx ○○○	○○	○			○○○○ xx ○○○
46 ~ 47	○ x		○	○		○○○ x
48 ~ 49	○○	○○				○○ ○○
50 ~ 51	○○○ x ○○○	○	○○		○	○○○○ x ○○○
52 ~ 53	○○○ ○○○	○○		○		○○○○ ○○○
54 ~ 55	○○○ ○○○	○	○	○	○	○○○○ ○○○○
56 ~ 57	○○○	○				○○ ○○
58 ~ 59	○○○ ○○○		○	○		○○○ ○○○
60 ~ 61	○○○ ○○○	○○				○○○○ ○○○
62 ~ 63	○○○ ○○○	○				○○○ ○○○
64 ~ 65	○○	○○				○○ ○○
66 ~ 67					○	○
68才以上	○○○				○	○○○

最年長 ○ 最年少 ● 平均年齢 ×

図2 年 令 構 成 二分布図二

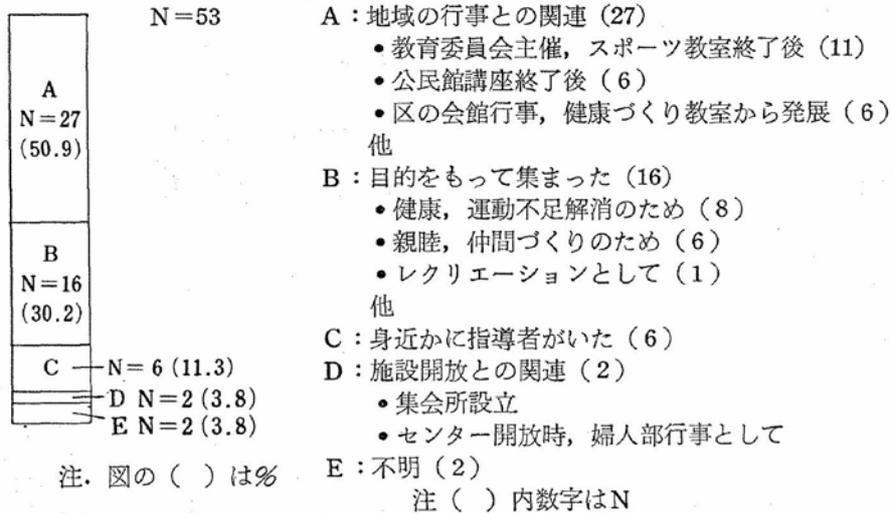


図3 グループづくりのキッカケ 一自主活動型一

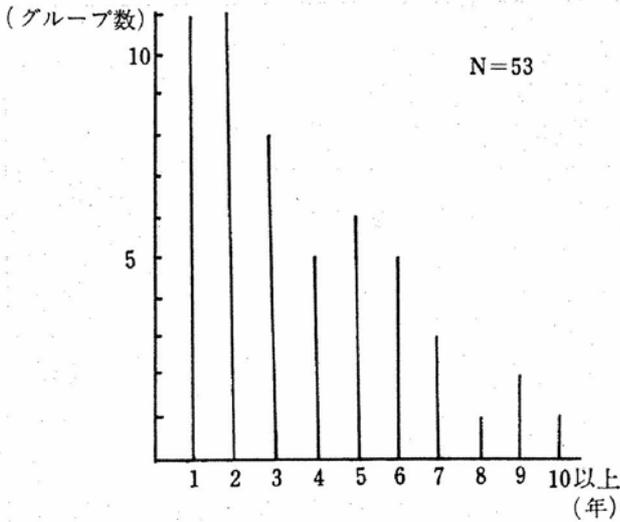


図4 存続年数 —自主活動型—

自主活動型グループにおける存続年数を年数ごととグループ数でまとめると(図4)となり、1、2年を経過した若いグループが多く、存続年数平均は3.7年(N53)である。

グループのスタートした時期を月ごとにまとめ

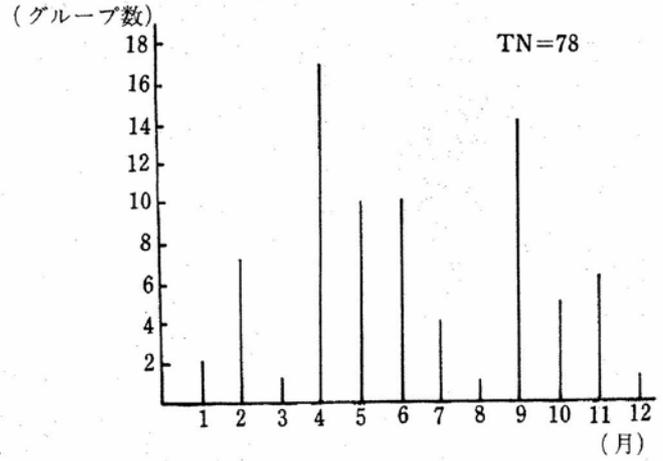


図5 グループの発足月

ると(図5)、4、9月の発足が目立っている。

<加入の条件>

いつでも誰でも加入出来るグループは53(65.4%)、図6に制約のあるものについての内訳を示す。

TN=81	
加入自由 N=53 (65.4)	一定の制約がある N=28 (34.6)

注.( )は%

制約のうちわけ:

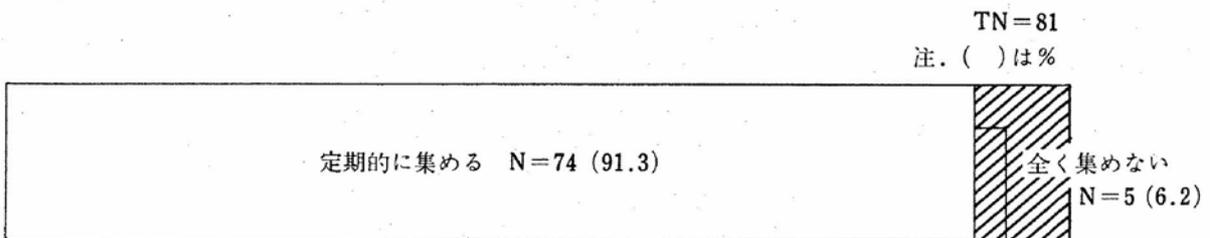
人数制限	6	市教委教室終了者	2
年齢制限	5	市民・他クラブ未入会者	2
入会月制限	5	その他	4
在校生の母	4		

図6 加入条件

<活動の財政>

会費の徴収(図7)については、ほとんどのグループがこれを徴収しており、会費による運営が

なされている。会費はすべて月額に換算してまとめたものである(表4)。



必要な時だけ集める N=2 (2.6)

図7 会費

表4 会費額

N=74

月額(円)	I	II	III	IV	V	計
4,500円以上	0	0	0	2	0	2
4,000~4,500	0	0	0	1	0	1
3,500~4,000	0	4	0	0	0	4
3,000~3,500	2	3	0	0	0	5
2,500~3,000	2	0	0	0	0	2
2,000~2,500	3	1	0	1	1	6
1,500~2,000	2	3	2	0	0	7
1,000~1,500	11	0	3	0	1	15
500~1,000	21	0	2	0	1	24
500円未満	6	0	0	0	0	6
不明	2	0	0	0	0	2
計	49	11	7	4	3	74

<活動の組織化>

規約及び運営・役員の有無についてみると(図8, 9), グループの過半数(59.3%)が運営委

員, 世話役を選出しているのに対し, 規約のあるグループは30%に満たない。

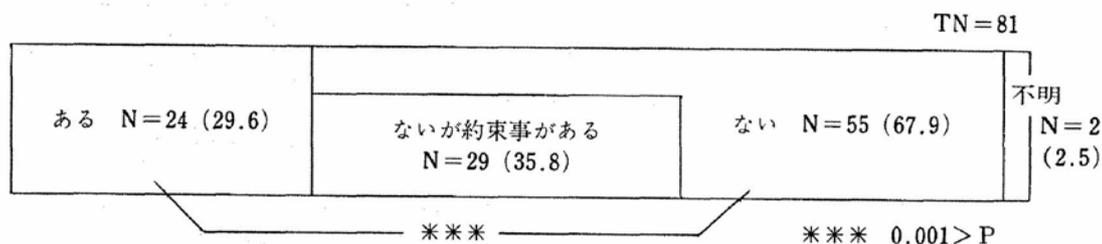


図8 規約はあるか?

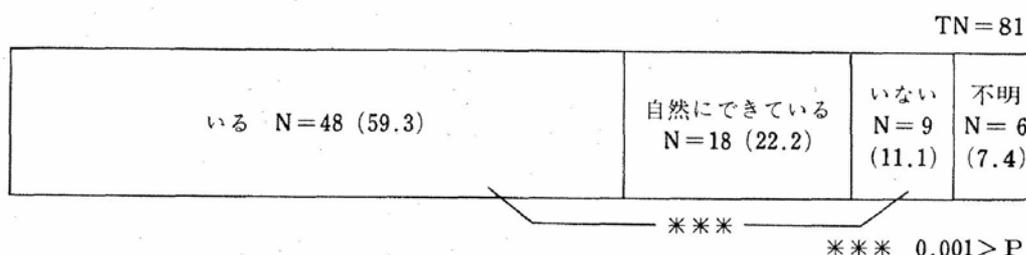


図9 運営委員・世話役

<実施活動>

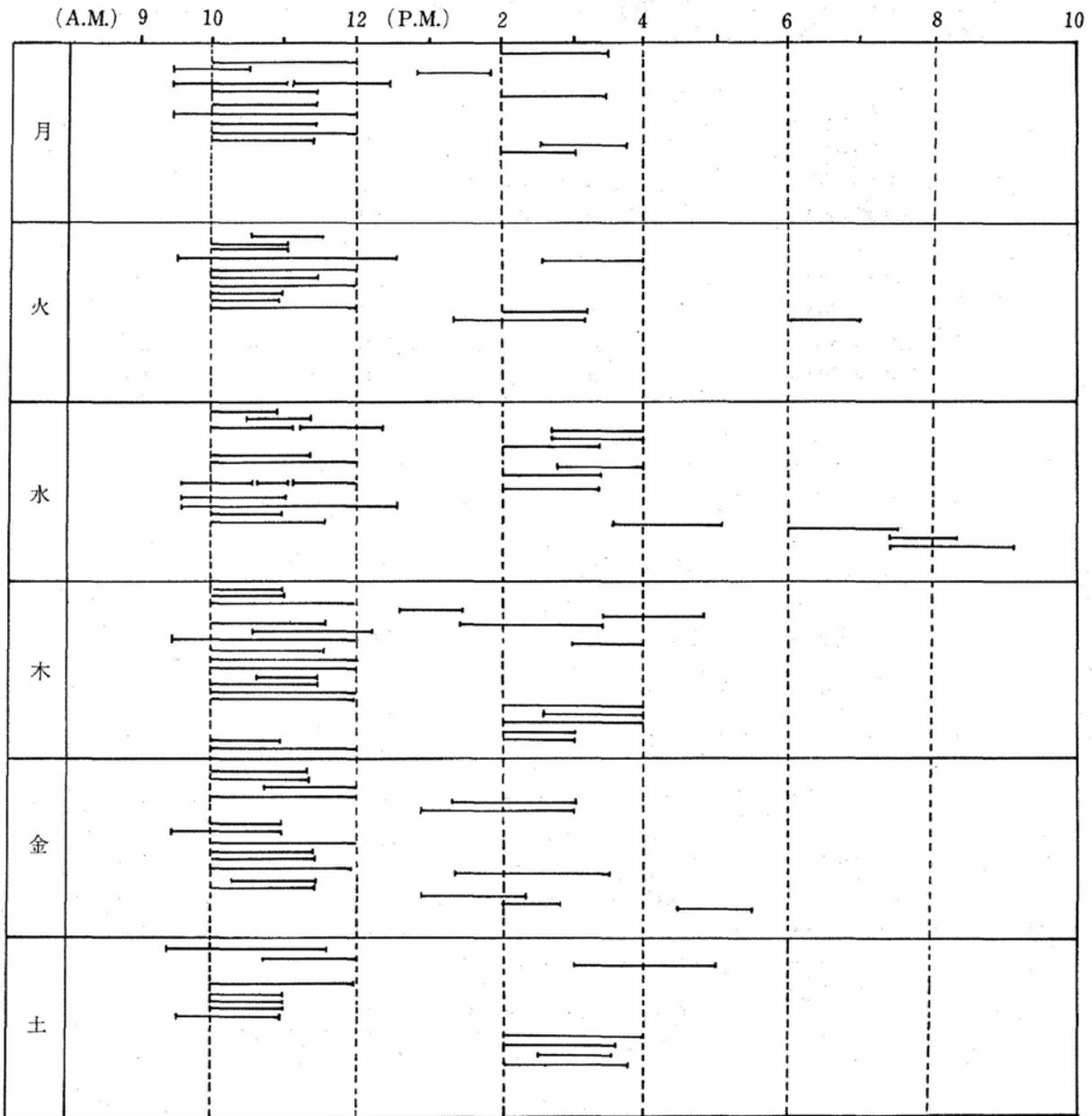
各クラブが活動を実施している曜日, 活動時間と時間帯の分布図(図10)によると, 木・金の活動が多く, 午前10~12時の時間帯への集中が著しい。

活動内容についてみると, 約半数のグループが

体操以外のプログラムや活動をおこなっている(図11)。

<指導者>

指導者のいない3グループを除いて, ほとんどのグループ(N=73, 96.3%)が指導者を得ており, 指導者の資格・肩書きは表5の通りである。



TN=81 (特例 2)  
(不明 3)

図10 活動曜日・時間・時間帯の分布

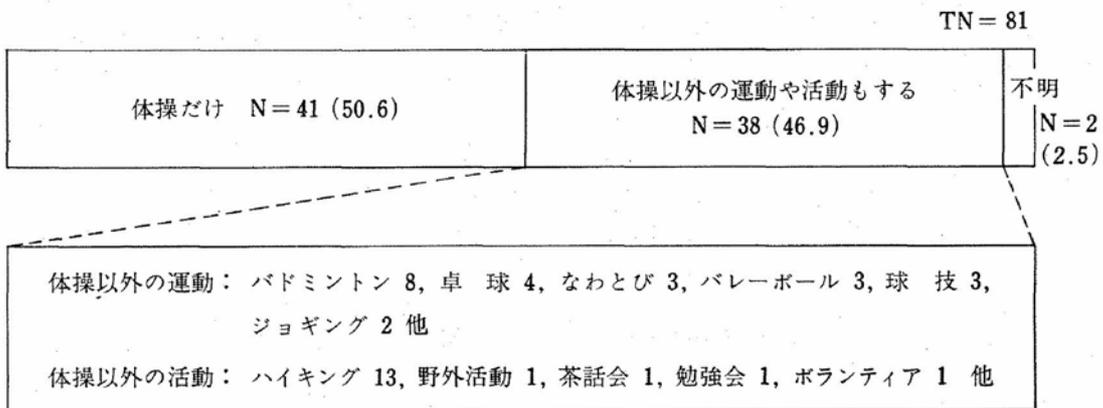


図11 活動内容

<活動施設>

活動をおこなうための場所の確保にかなり困っているグループ、非常に困っているグループは(23.4%) 19グループあり、自由活動型、指導者主導型、その他のグループに多く見られる(図12)。しかし、受動型グループ(Ⅲ・Ⅳ)について、活動場所の心配がないのはデータによるまでもないことと考えられる。

表5 指導者の資格・肩書き

	N	%
スポーツ指導員	31	38.3
スポーツトレーナー	13	16.0
スポーツリーダー	12	14.8
教育委員会関係者	9	11.1
体操経験者	12	14.8
体操の専門家	26	32.1
その他	9	11.1

複数回答 分母N=81

TN=81

	I	II	III	IV	V	計	%
困っていない	37	9	8	4	2	60	74.1
かなり困っている	12	2	0	0	1	15	18.5
非常に困っている	3	0	0	0	1	4	4.9
不明	1	1	0	0	0	2	2.5

困る理由：  
 場所が狭い 11  
 場所が無い 3  
 施設使用料が高く、運営困難 3  
 場所取りに困る 2  
 会場の行事で使えない 2  
 不規則にしか使えない 1  
 他

\* 0.05 > P  
 \*\* 0.01 > P

図12 活動場所の確保

<活動服装>

グループのユニフォームを持っているのは、36グループ(44.4%)で、ユニフォームのないグループ

が多いが、有意差は見られない。ユニフォームの有無により、ユニフォームの必要性の感じ方に差が見られる(図13)。

ユニフォーム	グループ数	%	<必要性を感じるか>		
ある	36	44.4	感じる N=14 (38.9)	特に感じない N=17 (47.2)	不明 N=5 (13.9)
ない	45	55.6	N=2 (4.4)	N=29 (64.4)	全く感じない N=14 (31.2)

TN=81

\*\*\* 0.001 > P

図13 ユニフォームの有無と必要性の有無

<交流や発表活動>

グループ内活動から一歩進めて、外部グループや団体との、交流や発表の機会を有しているのは

38グループ、機会のない42グループとの間に有意差はない。交流・発表の機会の有無はグループユニフォームの有無と関係があり、有意の差が見ら

交流又は発表の場	グループ数	%	〈ユニフォームの有無〉	
			ある N=24 (63.2)	ない N=14 (36.8)
あ る	38	46.9		
な い	42	51.9	***	
不 明	1	1.2	N=12 (28.6)	ない N=30 (71.4)

\*\*\* 0.01 > P

図14 交流・発表の有無とユニフォームの有無

交流又は発表の場	グループ数	%	〈ユニフォームの必要性を感じるか〉			
			感じる N=11 (28.9)	特に感じない N=22 (57.9)	N=2 (5.3)	不明 N=3 (7.9)
あ る	38	46.9				
な い	42	51.9	*		**	
			N=4 (9.5)	N=23 (54.8)	全く感じない N=13 (30.9)	N=2 (4.8)

\* 0.05 > P    \*\* 0.01 > P

図15 交流・発表の有無とユニフォームの必要性の有無

れる (図14)。

又、交流・発表の機会を有するグループは、機会を有しないグループに比べ、ユニフォームの必要性を強く感じている (図15)。

ま と め

「婦人たちが体操している仲間又は集り」の実態調査のねらいは、まず、体操をしたいと思った女性が仲間入りして体操することが出来るところがどれほどあるか。どこに、どんな風な集りがあるってどんな活動をしているのか、の疑問に答えることであり、次に、その様なグループの全体像を把握することであった。しかし、調査者の力不足もあって、①十分なグループの探し出しが出来たとは言えないこと、②グループのプライバシーは守るという条件にもかかわらず、回収率は予想以上に劣り、又、グループ類型間の回収率の差が大きく、その方向での比較が困難となった、などの理由で、予備調査の域を出なかったのは残念である。

調査結果のあるがままを考察した中から、次のような点を取りあげてまとめにしたい。

1. 把握出来たグループ数は173、そのうち、81グループから調査回答が回収出来、回収率は50.9% (調査対象159グループ)であった。
2. 体操グループをその主催、運営、成立状況から、I 自主活動型、II 指導者主催型、III 受動型A、IV 受動型B、V その他、の類型に分類した。
3. 集りの大きさは、11~20人の小規模グループが多かった。
4. グループの誕生日は、4月に次いで9月が多い。
5. 存続年数平均は、3.7年 (自主活動グループ)
6. 会費の定期的徴収をほとんどのグループがおこなっている。91.3% (N=74, TN=81)
7. 規約はないグループが多い。
8. 運営・役員はあるグループが多い。
9. 活動は午前中、10時~12時の間が多い。
10. ほとんどのグループが指導者を得ている。96.3% (N=78, TN=81)
11. 活動場所が確保出来ており、活動場所に困っていないグループが多い。
12. グループユニフォームのあるグループがユニ

フォームの必要性を感じている割合が高く、その必要性を全く感じないグループはユニフォームのないところに多い。

13. 他グループとの交流・発表の有無は、ユニフォームの有無と、更にユニフォームの必要性を感じる割合を左右する。

この調査研究にあたって、大阪教育大学・佐々木美雄・島崎 仁両先生から助言指導を、府庁保健体育課から多くの情報と協力を、又、秋吉道世・松田弘子・小林範子さんたちからは熱心な調査協力をいただいたことを記し、深謝します。